

学界消息

日本考古学協会 昭和四〇年度大会

昭和四〇年一月三〇日～二月一日

於 別府大学文学部

早水台遺跡 K S F 地点の調査

園分直一・佐藤 暁

山口市美濃ヶ浜出土の旧石器と洪積層および

海岸段丘 小野忠典・河野通弘

山口県豊浦郡豊浦町田島合地の遺跡

園分直一・太田用太郎・伊原晃雄

後藤鎮幸・伊東照雄

宮崎県下五ヶ瀬川流域の洞穴調査 鈴木 重治

有舌尖頭器を出した新潟県中林遺跡

芹沢 長介

長崎県佐世保市岩下洞穴の調査

麻生 優・川崎義雄

一九六五年度帝釈峽遺跡群の発掘調査

松崎寿和・杉原莊介・戸沢充則

藤田 等・潮見 浩

兵庫県芦屋市朝見ヶ丘縄文前明遺跡の調査

村川行弘・石野博信

栃木県大谷寺洞穴遺跡の調査

辰巳四郎・大和久震平・埜 静夫

千葉県松戸市貝の花貝塚の調査

西野 元・関根孝夫

新潟県長岡市岩野原遺跡の炉地・住居址について 中村孝三郎

東京都町田市山崎遺跡の第一次調査 久保 常晴

宮城県山王遺跡の発掘 伊東信雄・芹沢長介

高知県中村貝塚出土の遺物について 伊藤玄三・林 謙作・工藤雅樹

岡本健児・広田典夫・片岡應介

東京都八丈島湯浜で発見された石器時代遺跡について 戸沢充則・杉原莊介

野田市堤台遺跡の第二次調査 下津谷達男

縄文時代における膠着剤としての土漆青の頒布範囲とその時期について 江坂 輝弥

古代東北における製塩遺構の研究 加藤 孝・後藤勝彦

神奈川県川崎市不動台遺跡の調査 久保常晴・岡 俊彦

若王寺遺跡第一次発掘調査概要 村川 行弘

飯塚市立岩遺跡の甕棺葬と人骨 児島隆人・藤田 等・永井昌文

栃木県出流原における弥生時代の墓址群 杉原莊介・大塚初重

千葉県我孫子町水神山古墳の調査 倉田芳郎・甘粕 健

茨城県新治郡出島村風返大日塚古墳の発掘調査 輕部慈恩・平沢一久

巴型銅器を出した西山貝塚調査概要 藤田 等

金銅透彫鈐帯金具について 網干 善教

横浜市西区榎井沢一号墳の調査 甘粕 健・井上義弘・沼田大多郎・田中義昭

天理塚穴山古墳調査概要 近江昌司・白木原和美

千葉県龍角寺古墳群の調査(第一次) 平野元三郎・中村恵次・市毛 勲

岡山県久米郡中央町唐臼古墳群の調査 鎌木義昌・高橋 護・松岡文一

埼玉県入間郡東金子瓦窯跡の調査 坂詰 秀一

渥美半島田原町壺沢の古窯址群の調査 吉田章一郎・小野田勝一・藤成 顕

国内各種石塔の初期遺品年表 千々和 実

昭和四〇年度前半平城宮跡調査概要 樺木杜人・八賀 晋

人文地理学会 昭和四〇年度大会 昭和四〇年一月三日・四日

於 三重県下の遠洋漁業 前田 和夫

南薩のカツオ漁業基地枕崎と山川 土井 仙吉

沿岸漁村における栽培漁業―山口県の場合― 新宅 勇

伊豆大室山麓における開拓漁業の再編成の指向性について

細井 淳一

松本市烏川扇状地における桑園の水田化

大迫 輝通

徳島新産業都市地域における生産基盤の造成と漁業補償 第一報

重見 之雄

衰退過程における北九州工業地帯

井出策夫・竹内淳彦・板倉勝高

工業生産力の増大と中枢機能の膨張

板倉 勝高

人口現象からみた阪神周辺地域の都市化と通勤通学圏

岸本 実

地域格差に関する若干の分析——屋外労働人口を指標として——

渡辺 利得

名神高速道路の利用状況とそれが周辺地域に与えた影響

有末 武夫・松田 信

水野 元・宮知巳年生

対島嶺田代壳葉行商圏の成立過程 第二報

小林 肇

毛利藩藩政の一考察

山澄 元

郷土の人物に対する評価の地理的意義——西日本の場合——

千葉 徳爾

中国・四国地方の住家の一特質——広間中心型間取の一型式の系譜——

佐藤基次郎

近江の民家に現われた裏日本式気候の影響について

内田 秀雄

フランドルの散居環溝農場

谷岡 武雄

わが国と英國の村落発達の比較歴史地理的考察

高重 進

わが国社会文化現象の地理的研究について

小川 徹

中京大都市圏の地域構造と開発試論

伊藤 郷平

地域計画のための地理学的準備研究

井関弘太郎

〈エクスカリジョン〉(十一月五日)

Aコース 和歌山 紀北海岸

Bコース 琵琶湖一周

史学会 第六十四回大会(創立七五周年記念)

昭和四〇年十一月六日・七日

於・東京大学

〈日本史部会〉

シンポジウム「古代末期史の諸問題」

院政期の政治形態

在地領主制の展開

「職」をめぐる

院政期文化の特質

〈東洋史部会〉

シンポジウム「アジア諸民族における国家形成」

中国 殷代の国家構造

松丸 道雄

中国 皇帝支配制度の形成

西嶋 定生

インド アショールの政治の歴史的意義

山崎 利男

満州 清太宗の大清国成立過程

神田 信男

満州 清太祖の後金成立過程

三田村泰助

ジュンザル 最後の遊牧騎馬民王国

佐口 透

南詔 南詔王國形成における部族組織の構成と性格

白鳥 芳郎

イスラム シャイフ・予言者・カリフ

嶋田 裏平

〈西洋史部会〉

シンポジウム「市民革命の国際環境」

イギリス革命の国際環境

浜林 正夫

アメリカ独立革命の国際環境

富田 虎男

フランス革命の国際環境

井上 幸治

一八四八年革命の国際関係

林 健太郎

第一次世界大戦とロシア革命

岩間 徹

ドイツ革命の国際関係

村瀬 興雄

東方学会 第十五回会員総会

昭和四〇年一月九日

於・早稲田大学

〈講演〉

古道教と仏教との交渉について

福井 康順

漢代における人物画像について

長広 敏雄

立教大学史学会 大会

昭和四〇年一月一三日

於・立教大学

建具工業地域の特質とその地理的基礎について

答志島の民俗

ザヴィエルの日本観

縄文時代の磨製石斧について

伝世品よりみた近世の平泉中尊寺

ウェアリウス・コルネリウス法をめぐって

高橋 秀

明治中期キリスト教教育の問題点

孫権の夷洲・亶洲遠征について

民選議員設立建白と奥宮健齋

日本史高校教科書における皇國史観と近代化

論

山田 昭次

〈公開講演〉

新田開発の地域的展開

菊地 利夫

大塚史学会 大会

昭和四〇年一月一三日・一四日

〈第一日〉

シンポジウム「アジアと近代——東アジアに

おける十九世紀後半の変革と主体——」

幕末維新期における経済構造と階級闘争

高木 俊輔

中国における十九世紀後半の社会情勢

小村 一美

〈第二日〉

〈日本史部会〉

神話の編年

中世の郡郷制の成立について

中世村落における生産力について

中世真宗諸派の思想について

下総国「市川関所」の古文書について

近世後期における農村構造と村方騒動

化政期の松代藩農政と養蚕業

伊那国学と地主制

日本帝国主義國家の成立

〈東洋史部会〉

衰了凡——宝坻県における減糧について——

清末・安徽省蕪湖県における抗租

漢魏時代における河西の発展

いわゆる禁煙運動の展開過程における抵抗派

の思想的動向——とくに黃爵滋の場合につ

いて——

宋代の佃戸と奴婢・雇傭人について

明末清初における奴変の社会的背景——

主として徽州府下の所有關係をめぐって——

田中 正美

丹 喬二

清末歌老会の興起と李世忠

野本 直

〈西洋史部会〉

「九八年の世代」とスペインの歴史学

第十二回国際歴史学会に参加して

古代遺跡めぐり

西沢 龍生

橋口 倫介

杉 勇

日本史研究会 大会

昭和四〇年一月二〇日・二一日

於 立命館大学

〈第一日〉〈創立二十周年記念講演会〉

日本史研究会の二十年

歴史像の分裂と歴史教育

現代に生きる歴史学徒の任務

林屋辰三郎

門脇 禎二

羽仁 五郎

〈第二日〉

テーマ「アジアの変革と歴史報告」——現代

歴史学の方法的批判——

古代「大化改新」への分析視角

中世 鎌倉末期の領主と農民

丸山 幸彦

近世 日本資本主義形成の歴史的前提——幕

藩体制解体過程の歴史的特質——

中村 哲

近代 日本帝国主義と朝鮮——三一運動と

「文化政治」——

文化史学会 大会

昭和四〇年一月二七日
於・同志社大学

後三年合戦絵巻に関する二三の問題

京五糸焼物仲間について

日本古代の硯の変遷

アメリカ革命前における反奴隷思想

アレクシス・ド・トックヴィルにおける歴史的前

測の問題について

ドイツ一九世紀六〇七〇年代の政治構造

散所法師について

西本願寺の芸能

明治書生の受洗

ボルネオ学術調査隊報告

江畑 武・石附喜三男・鈴木幸三

愚管抄の歴史意識について

石田 一良

〈公開講演〉

関西大学史学会 大会 (関西大学創立八十周年記

念)

昭和四〇年一月二四日

於・関西大学

紀伊国名草郡日前・園懸両宮の成立

奈良時代山寺の宗教的意義

唐代尚書右僕射の「不知国政」について

鎮圀の形式と投銀商人の動向

漠の將軍

大庭 正一

井上 正一

遠藤 順昭

田中 勲

小山 仁示

大庭 脩

〈公開講演〉

肉食とヨーロッパ伝統思想

鯨田 豊之

四八巻六号吉田晶「平安期の開発

に関する二・三の問題」正誤表

2 頁下段17行目 幾内→畿内

3 頁第一表 2 番史料 西暦一〇〇九→

一〇一〇、同出典四四八→四五三、4

番史料出典一〇七〇→一六七〇、備考

1 の末尾に②を付す。

5 頁下段8行目 五七三→五七七、同14

行目 曼荼羅寺→曼荼羅寺

6 頁下段10行目 二〇八町→二〇九町

7 頁上段 文永一〇(一二七三)→年末

詳、同下段4行目 六五一頁→六五五

頁

8 頁下段15行目 五七三→五七七

12 頁下段13行目 おいは→おいては

13 頁註⑥ されるもとも→されることも

14 頁註⑫ 日本世の→日本中世の、同下

段17行目 二六〇→二六五

15 頁上段15行目 大宰師→大宰帥、下段

9 行目 ⑤トル

20 頁上段13行目 四四八→四五三、下段

1 行目 五七三→五七八

21 頁上段2行目 二四二→二五七、七三

歩→七四歩、同4行目 三七二→三

七七

24 頁下段8行目 相伝所領→雖相伝所領

25 頁上段18行目 公重→公里、() の

註をとる。下段1行目 公重→公里、

同15行目 一七九四→二〇八二、同18

行目 一八二六号・一八四七号→二一

二四号・二一四三号

29 頁下段15行目 日本後記逸文→日本紀

略、八年二日→八年二月、

30 頁註③、一八二六→二二二四、一八四

七→二四三、註④ 封建制所立→

封建制成立

史 林 (第四九卷第二号)

一九六六年二月二五日印刷 定価三〇〇円
一九六六年三月一日発行

発行所 京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

理 事 長 史 学 研 究 会
田 村 実 造

印刷所 京都市下京区西七条御所ノ内中町五〇
中村印刷株式会社